図書館だより

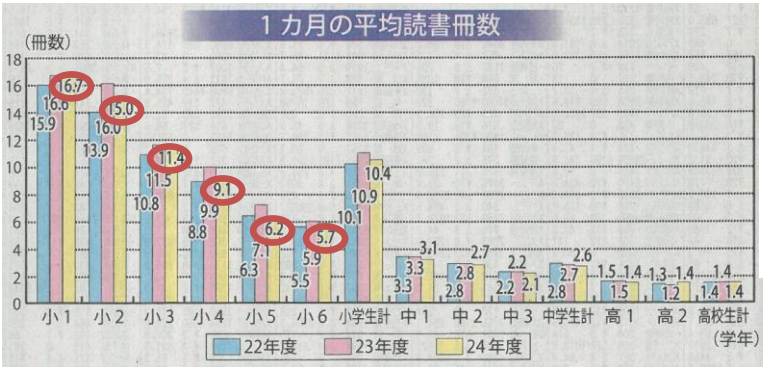
平成２５年4月8日
矢祭町立内川小学校
学校図書館担当　石井

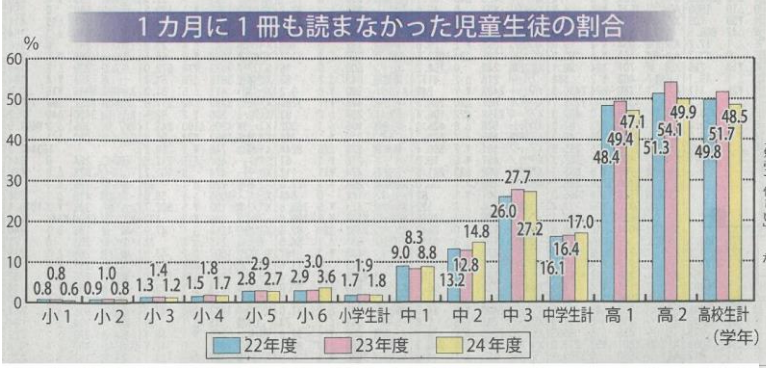
入学・進級　おめでとうございます！

　新入生や新しく転入された先生方をお迎えして、新チーム内川が結成されました！あたたかな日差しを受けて、花壇の花もきらきらと輝いて咲いています。今年度も、より一層たくさんの本に出会えるように、「もったいない図書館」との連携を図り、読書環境の整備や平成２４年度卒業記念品である移動式ブックシェルフなどを活用して行きたいと思います。

毎月５冊を目標に読書をがんばります！

平成２４年１１月に行われた「読書に関する調査」の福島県教育委員会からの結果が発表されました（福島民報3月２６日の記事より）。それによると、福島県の小学生が１ヶ月に読む本の平均は、10.4 冊ということが分かりました。





内川小学校では、毎月２冊以上本を読むことを目標に、『ＢｏｏｋＢａｎｋ』を活用した読書指導を行ってきました。今年度は、「プラスワン」の気持ちで、毎月５冊以上を目標に読書指導を行っていきたいと思います。

　なお、各学年の１か月の平均読書冊数は、左のグラフの赤枠で囲んだ数字の通りです。

１カ月の平均読書冊数

「読まない」高校生半数

県教委が調査結果公表

小学生10.4冊
中学生 2.6冊
ともに減少

県教委は二十五日、平成二十四年度の小中学生と高校生を対象にした読書に関する調査結果を公表した。一カ月の平均読書冊数は小学生が〇・四冊、中学生は二・六冊、高校生は一・四冊だった。前年と比べ小学生は〇・五冊、中学生は〇・一冊減少した。高校生は同じだった。

一カ月の平均読書冊数と一カ月に一冊も読まない児童生徒の割合は【グラフ】の通り。一カ月に一冊も読まないと答えた割合は小学生が1・8％、中学生が17・0％、高校生が48・5％だった。前年度と比較すると、中学生が微増で小学生は横ばい、高校生は3・2％の減少だった。

本を読まない理由では、小学生が「遊び」「楽しい」、中学生は「勉強で忙しい」、高校生は「部活動で時間がない」などの割合が高かった。一方、読書のきっかけについては小学生の大半が「学校の図書館で見つけた」と回答。中学生と高校生は「本屋で見つけた」の割合が高かった。

小中学生の調査は昨年十一月、高校生の調査は同十二月に実施した。小学生は七万三千三百九人、中学生は二万六千五百三十三人、高校生は八千四百五十七人が答えた。

継続は力なり！！今年度もご協力お願いします！！

　今年度は、児童全員が毎月２冊以上から、５冊以上の本を読むことを目標に設定しました。『家読』の推奨も行っており、児童が日頃から本に親しめるような環境をつくっていきたいと考えておりますので、ご家庭の方でも、ぜひ本に触れ合う機会を増やしていただけるようご協力お願いします。

　『継続は力なり！』という言葉もあります。学校と家庭が連携し、継続して読書活動に取り組んでいきたいと思いますので、重ねてご協力お願いします。